

障害者週間についてご存知ですか？聞いたことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、詳しくご存じない方も多いのではないのでしょうか？この機会に是非知っていただけたらと思います。

## 障害者週間とは・・・

『障害者週間』は、国民の間に広く障がい者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障がい者が社会、経済文化その他あらゆる分野の活動を積極的に参加する意欲を高めることを目的としています。毎年12月3日～9日までの期間が『障害者週間』です。この期間は、国や地方公共団体関係団体等において、様々な意識啓発の取組みをしています。

加賀市では障がいのある方の会『悠々あゆみ会』を毎月1回開催し、交流や、余暇活動を通して、障がいのある方の自立と社会参加の話し合いなどを行なっています。昨年は、「障害者週間」を知ってもらうため、悠々あゆみ会のメンバーが複数の加賀市内の店舗にお伺いし、お店にチラシとメッセージ入りのティッシュを置いてもらい、市民の方に持ち帰ってもらえるようにしました。

また市民の皆さんに向けて障がい者の理解を深めるためのメッセージボードを図書館や市役所に設置しました。



—発行にあたって—

「アーモンド」は、障がいのある方が住みやすい地域になるための体制を整備する事業の一つとして、地域住民に向けて発行する機関誌です。

障がいとは何か、障がいのある方の生活や、必要とする支援はどのようなものかをお伝えすることで、障がいに対する理解を深めることを目的としています。また、多くの地域住民の方々に障がいについて知っていただき理解を広めることを目的としています。より多くの地域住民の方々に障がいについて知っていただくことで、障がいや病気の有無にかかわらず、皆さんが生活しやすい地域になればと考えています。

発行元： 社会福祉法人長久福祉会 地域活動支援センターかが  
 (石川県加賀市百々町81番地1)  
 地域活動支援センター機能強化事業  
 発行日： 令和5年3月  
 問い合わせ先： 地域活動支援センターかが (担当：小西)  
 TEL 0761-72-4545  
 FAX 0761-72-7030

気になったことや感想があれば、  
 問い合わせ先まで  
 お気軽にご連絡下さい♪

アーモンドは、障がいのある方に対する理解を広めることを目的としている情報誌です。このコーナーでは当事者の方に協力を得ながら、「こころの病気について」を紹介しています。こころの病気は本人が苦しんでいても、周囲からは分かりにくいという特徴があります。そのため気づかないうちに無理なことをさせたり、傷つけたりして症状を悪化させているかも知れません。周囲の人々が病気の特徴を理解し、本人をサポートしてあげることが大切です。今回は、統合失調症<sup>※1</sup>の症状や治療について吉田仁志さんに教えていただきました。

### 統合失調症を経験して感じていること

吉田 仁志

#### 統合失調症になったきっかけ

22歳の時に友人から誘われたねずみ講の仕事をするうちに、お客さんをだますような感覚がつかまりました。それから毎晩のように仕事でかかわる友人や先輩の接待が続き、眠れなくなりました。発症当時は亡くなった祖父の声や、父が母をけなすような声が聞こえました。このような嫌な幻聴の影響を受けて、人と会話をすることがつらく仕事を休んでしまうようになりました。

#### 統合失調症の治療

精神科に2回入院した経験があります。1回目は3か月、2回目は3年間でした。今は毎月1回通院治療を続けていて、毎日精神科のお薬を飲んでます。症状がひどい時には頓服薬を飲むことがあります。そうやって自分の体調管理をしています。また、知り合いの人や支援者に否定せずに話を聞いてもらうと楽になります。

#### 日々の暮らしについて

障がいのある人が働ける障害福祉サービス事業所で仕事をしたり、病院のデイナイトケア<sup>※2</sup>に通ったり、地域活動支援センターで過ごしたりしています。また、僕も人の役に立ちたいという思いがあって、同じ障がいや病気の悩みを持つ人たち同士で支え合うピアサポーター<sup>※3</sup>としての活動もしています。

#### 市民の皆様へ

障がいのある人の話を「ゆっくりとせかさず」「自分の意見を押し付けずに」聞いて欲しいです。例えば、世間話のような話しやすいことから話をしてもらえたらいいと思います。

また、障がいのある人の中にも、僕のように誰かの役に立ちたいという思いがあることを知ってほしいです。人に頼るだけじゃなく、人を助けたいとか、力になりたいという思いが、障がいがある、ないにかかわらず、あることを知って欲しいです。

#### ※1 統合失調症

こころや考えがまとまりづらくなってしまふ病気です。そのため気分や行動、人間関係などに影響が出てきます。周りの人には聞こえない声が聞こえる幻聴がみられます。また意欲の低下、感情表現が少なくなるなどがあります。

#### ※2 デイナイトケア

精神科病院で行われる再入院予防・再発予防、居場所、生活リズムの維持を目的とした通院治療です。

#### ※3 ピアサポーター

自ら精神疾患の経験を持ちその経験を活かしながら他の精神疾患のある障がい者の支援を行なう人のことです。

～厚生労働省HPより引用・編集～

## 障害福祉サービス事業所紹介コーナー

障がいのある方の暮らしを知ってもらう機会として、今回は社会福祉法人南陽園が運営する「地域活動支援センター楽（ジョイ）」を紹介します。施設長の荒栄さんにお話を伺いました。

※地域活動支援センターとは・・・

創作活動や、生産活動の機会の提供を行なっています。生活における困りごとを相談できる場を作ったり、他者とお話する場を設けたりして、障がいのある方の社会交流を支援することを目的としています。

### 【地域活動支援センター楽（ジョイ）の概要】

社会福祉法人 南陽園

「地域活動支援センター楽（ジョイ）」

住 所：加賀市柴山町も 21 番地 1

T E L：0761（74）6632

F A X：0761（74）6232

開所日時：月曜日～土曜日 9：00～17：00（8/15、12/30～1/3 は除く）

送 迎：要相談 実質負担：食事代 510 円（行事や日中活動にかかる費用は実費の場合あり）

定 員：10 名



楽（ジョイ）さんは、柴山湯、白山連峰を一望できる絶景ポイントに立地されて、館内に入るととても広く、玄関にはアロマのいい香りがして、リゾートホテルのようで素敵ですね。

楽（ジョイ）さんには、どのような方が来られているのでしょうか？  
教えてくださいませんか？

家以外で過ごす場として、余暇活動や他のご利用者様との交流の場として利用されている方や、お風呂やリハビリ機器を利用しに来られる方などがおられます。ご利用者様の方々が個々の希望に応じていろいろな設備や、活動を選んで利用されています。



環境だけでなく、設備も充実しているのですね。お風呂について詳しく教えてくださいませんか？

身体障がいのある方が利用されることが多く、ご利用者様のニーズに合わせて入浴の提供をしています。入浴では毎月の入浴を日替わりで楽しんでいただけるよう、毎月お楽しみ入浴を行っています。（4月桜湯、5月どくだみ湯、6月菖蒲湯、7月桃湯、8月はっか湯、9月菊湯、10月生姜湯、11月蜜柑湯、12月柚子湯）お風呂の種類は、ミスト浴、座位浴、リフト浴があります。介護浴槽しかないのでは、介護の必要がない方が一人で入ることができるお風呂があるといいなと思っています。

ミスト浴

座位浴

リフト浴



お風呂以外でもたくさん設備が充実しているようですね。詳しく教えてくださいませんか？



リハビリコーナーがあります。各種専門的リハビリ機器を利用して、自主訓練をするなど、理学療法士からアドバイスをもらいながら、ご利用者様の個々のニーズに合わせリハビリが出来ます。

活動室もあります。ベットに寝たまま入ることができるお部屋があります。アロマをたいりいい香りの中でのんびり過ごしたり、音楽を聞いたり、ミュージックケア（音楽療法）の先生と音楽を楽しんだりすることが出来ます。先生とマンツーマンでじっくりと音楽を楽しむことも出来る、かわいいお部屋になっています。



コロナ禍で変化したことや工夫したことはありますか？

コロナ前は、木場湯のウォーキングに行ったり、バーベキューに行ったりなど、外出行事をしていました。しかし、コロナ禍では、外出が難しくなったため、おいしい料理をテイクアウトして食べたり、館内で感染対策をしてクリスマス会や、ひな祭りなどの行事を行ったりしました。